



こんな時、みんなならどう伝えますか

10月となり暑さも一気にやわらいできました。18日（土）の運動会に向けてグランドでの練習も増えてきています。



9月最終日の30日に学校朝会で校長講話を行いました。子どもたちに『赤白帽子を忘れた時、みんなはどう伝えているのか』、3人の6年生に役を演じてもらいながら考えていきました。

Aさん「先生、あかしろぼうし」

Bさん「先生、あかしろぼうしをわすれました」

Cさん「先生、あかしろぼうしをわすれました。どうしたらいいですか」

3人の中ではCさんの伝え方が一番いいように思いますが、役を演じてもらうために事前に6年生に尋ねると、多くの6年生の子たちがA・B・Cの伝え方より、もっといい伝え方があると言います。

それは『先生、赤白帽子をわすれたので、黄色帽子で（体育を）していいですか（します）』でした。



「赤白ぼうしをわすれたので、黄色ぼうしで体育をしていいですか」



朝会の中でも、役を演じてくれた3人にこの言い方のどこがいいと思っているのか尋ねると、「（黄色ぼうしで体育をしようと）自分で考えて

朝会の中では、短時間であっても対話をする時間を意識的に確保するようにしています



判断しているところがいいところ」と話をしてくれました。6年生の担任の先生にこの話をすると、「それで、(あなたは)どうしたいの」と尋ねることがよくありますと話をしてくれました。何気ない生活の一番にも子どもたちを『じりつ』へと導くことができると感じた瞬間でした。

竹山小の合言葉は『じりつ(自立・自律)』です。『自律』の対義語は『他律』です。同じ国語辞典で確認すると「自分の考えによるのではなく、他からの命令によって行動すること」でした。他とはいったい何のことを示しているのでしょうか。



今、先生方でそもそも『じりつ』とは何か。どんな姿になれば『じりつ』したと言えるのか考えをまとめようとしています。そうした取組が学校目標の『じりつ』へと繋がっていくと考えています。

子どもたちと話をしていると一人ひとりのスピードの

違いこそあれ『じりつ』への階段を本人たちは気付かずに楽しんで登っているように感じています。これからもたくさんの方々と一緒に考え続けたいテーマです。